経済同友会 つながる▶▶▶

RELAY TALK #295

紹介者
堀江 章子
アクセンチュア
常務執行役員

平子 裕志
ANAホールディングス
取締役副会長

二人のマエストロ

「皆さん、世界は戦争と不寛容に引き裂かれています。しかし、今日は素晴らしい音楽を聴き、別の考えが生まれたのではないでしょうか？　音楽を作りあげているものには憂鬱（ゆううつ）や不安定な感情も含まれますが、それをどう考えるかは皆さん次第です。だからこそウィーンフィルと私は皆さんにご挨拶します。あけましておめでとうございます」

指揮者ティーレマンが元日にウィーンフィルのニューイヤーコンサートで、アンコール曲を演奏する前に語ったこの言葉を覚えておいでの方もいるでしょう。新年早々、深みのあるメッセージだなと思いました。

同時に、小澤征爾さんが作家村上春樹さんとの対談で語っていた言葉がよみがえりました。

「指揮に関しても、教えることに関しても、こうあるべきだ、という型を用意するのではなくて、相手を見てその場その場で対応していく。だから僕みたいな人間は教則本とか書けないですよね」

日本の３月は別れの季節です。「さよならは別れの言葉じゃなくて　再び逢うまでの遠い約束」とは私の世代にはお馴染みの『セーラー服と機関銃』の冒頭の歌詞ですが、「さよなら」は本来「そうならなければならないならば」から来ているそうです。英語の “See you” や “Farewell” のような未来の行動をコミットせず事実をあるがままに受け入れている言葉です。そう思うにつけ、二人のマエストロの言葉が一層心に刺さります。憂鬱や不安定な感情は、偽情報や生成AIのハルシネーションなどで情報が洪水と化した世の中で撹拌（かくはん）され続けています。今こそ「どう生きるか」という自身の哲学と、状況を見てしなやかに乗り越える力が必要とされているのではないでしょうか。

2017年の「セイジ・オザワ松本フェスティバル」が小澤さんに会えた最後の機会になりました。ご冥福を心からお祈りいたします。

▶▶次回リレートーク

安部 和志
ソニーグループ
執行役専務